

## 植民地時代中期ポトシ銀山とその周辺部社会における市場経済の浸透と先住民

真鍋周三 (兵庫県立大学)

キー・ワード：ポトシ銀山、カシケ、水銀アマルガム法、ミタ、水銀汚染

### La penetración de la economía del mercado y los indígenas en las minas de plata de Potosí y su contorno en el medio de la época colonial

SHUZO MANABE (University of Hyogo)

Keywords: las minas de plata de Potosí, cacique, amalgamación de azogue, mita, contaminación por mercurio

#### 1. はじめに

1570年代後半から17世紀前半にかけてポトシ銀鉱業は繁栄し、ポトシには巨大市場が出現した。この時期、アルティプラノ（海拔高度3800m前後の高原地帯。その特徴は高地の湖と広い高原で先住民の密集地帯であった）の先住民共同体首長であるカシケ(*cacique*, 別名 *curaca*, *malluku*)は貢納を徴収し、ポトシ銀山の強制労働であるミタ(*mita*)労働者を自己の共同体から選出・徴集する役割を支配者から強いられた。だがカシケは単なる受け身の仲介者だったのではない。商業活動を展開し、農牧畜用地を入手し、自己の経済的地位を向上させようとするアクティブな存在でもあった。

カシケのうち、社会的上昇を遂げていた人々の事例としてシカシカ地方カラマルカ村のペドロ・チパナ、パカヘス地方ヘスス・デ・マチャカ村のガブリエル・フェルナンデス・グアラチらについてみると、彼らはポトシ銀山のミタの選出人・差配を務めていた。他方で彼らは、ペルー南部海岸地帯の溪谷部に出向いてぶどう酒を仕入れ、シエラ(山岳部)のポトシをはじめとする諸都市で販売するなど、商業や輸送業に従事することで富を蓄えていた。こうしたカシケの経済活動の実態を検討すると、17世紀において一部のカシケが実に企業家精神に富む人々であったことがわかる。

報告では、カシケが扱った商品としてぶどう酒とココアを大きく取り上げた。ポトシ市場への周辺部地域からの商品提供に注目した場合、この二つは16世紀末から17世紀にかけて最も重要な商品・換金作物であったこと、アルティプラ

ノのカシケがとくに好んで取引した商品だったことがわかる [Glave 2000:163]。

植民地時代前半期から中期にかけてポトシとその周辺部社会において市場経済が浸透するいっぽうで、17世紀後半になるとポトシ銀鉱業が低迷していく。17世紀という時代が進行していく中で、アンデス社会の変化や先住民の状況をみていく。

報告の流れであるが、まずII章では、ポトシ銀鉱業の基本的事項を扱う。III章では、市場経済の浸透と先住民について検討する。IV章では、17世紀ポトシ銀鉱業におけるミタ労働者の減少とその影響を考察し、最終章で結論を述べる。

#### 2. ポトシ銀鉱業をめぐる基本的事項

本章では、まず、1570年代に第5代ペルー副王トレド(在位1569-1581)によって開始された、スペイン王権によるポトシ銀鉱業への介入、そして出現した官民混合事業への流れをみていく。またポトシ銀鉱業を実質的に支えた生活必需物資の調達について検討する。そしてポトシ周辺部における各拠点地域の出現とカシケについてみていく。

#### 3. 市場経済の浸透と先住民

17世紀になると市場経済の浸透が顕著になった。ぶどう酒とココアの流通を基軸に市場経済浸透の実情をみていく。ポトシ銀山のミタの抑圧が高まるにつれ、先住民の中には元の共同体を離脱し、よそ者(*forasteros*)となって生きる人々が増えるが、その経緯を市場経済の浸透とも絡めて検討する。先住民社会に少なからず変化が

訪れる。

#### 4. 17世紀ポトシ銀山におけるミタ労働者の減少とその影響

本章では、ミタの抑圧に苦しむ先住民の状況をいちだんと深化して考察する。採鉱部門はもとより、とりわけ精錬部門において先住民は過酷な労働を強いられた。その最大の原因は、1570年代以降ポトシに出現した銀の精錬方法である水銀アマルガム法と密接に結びついていた。その実情をみると、ポトシにおいて水銀中毒症が蔓延しており、水銀汚染の実態が浮上する。ミタ労働者 (*mitayo*) の激減はポトシ銀鉱業の下落を招く。

#### 5. おわりに

ポトシ銀山の繁栄は水銀アマルガム法による銀の精錬と王権によって再編されたミタを基盤としていた。17世紀アンデスの先住民社会はポトシ銀山の繁栄・停滞・凋落と平行して変容を遂げていく。カシケがキーポイントを占めた。アルティプラノのティティカカ湖周辺の先住民共同体においてその社会変化は著しかった。カシケがポトシ市場の需要に応えるべく、太平洋沿岸部やラパス・ユンガスにおける商品・換金作物であるぶどう酒やココの取引にもっぱら従事したことは注目に値する。市場経済が浸透していく中で一部のカシケはまさに富裕者となった。

ぶどう酒生産は太平洋沿岸部のアレキパやモケグア地域の渓谷部に集中していた。ココの栽培はラパス・ユンガスにおいて先スペイン期から行われていたが、それをスペイン人征服者が継承した (アシエンダ・大農園の形成)。その労働力の多くはアルティプラノから供給された。多くの先住民がポトシ銀山のミタを免れたい一心でユンガスに身を投じた。先住民成年男子が共同体を離脱してよそ者となる現象は副王トレドの時代以前からみられたけれども、しかし副王トレドの諸政策以降、この現象に拍車がかかった。ポトシのミタ労働者の生存環境が著しく悪化したためである。ロビンズの研究が示しているように、17世紀においてポトシの精錬部門

を中心に水銀中毒症が蔓延した。ミタの回避が顕在化した。主たる逃亡先はラパス・ユンガスであった。しかし、共同体を離脱した先住民は、今度はアセンダード (農園主) から強力な支配を受けようになり、アシエンダに緊縛され不自由な状況下におかれる。他方、17世紀末になると共同体にとどまったカシケをはじめ先住民はレパルティミエント (コレヒドール・地方行政官による先住民への物品の強制販売) 制の抑圧に晒されるようになった。

16世紀以降ポトシの銀鉱業は植民地ペルーの経済を牽引してきた。だが17世紀末の時点でペルー副王領内を俯瞰すると、ポトシ銀鉱業の衰退と反比例するかの如く経済の多様化がみられる。例えば、ポトシ以外にも多数の銀鉱山が出現していた。キト地域では織物業が伸長していた。リマ、アレキパなど海岸部諸都市を拠点とする農牧畜業・商工業、そして内陸部でも同様の地域経済の進展がみられるようになった。

#### 【主要参考文献】

- Choque Canqui, Roberto, 1987, *Los caciques aymaras y el comercio en el Alto Perú. En La participación indígena en los mercados surandinos estrategias y reproducción social siglo XVI a XX*, Olivia Harris, Brooke Larson, Enrique Tandeter comps., pp.357-377, Centro de Estudios de la Realidad Económica y Social, La Paz.
- Glave, Luis Miguel, 2000, *Trajines, abastecimiento y mercado: Potosí, siglos XVI-XVII. En Potosí plata para Europa*, Juan Marchena Fernández comp., pp.155-174, Universidad de Sevilla, Fundación El Monte, Sevilla.
- 真鍋周三、2022、「植民地時代 (中期) ポトシ銀山とその周辺部社会における市場経済の浸透と先住民：ぶどう酒、ココ、水銀」、『人文論集』、第56巻、pp. 37-73、兵庫県立大学。
- Robins, Nicolas A., 2011, *Mercury, Mining, and Empire the Human and Ecological Cost of Colonial Silver Mining in the Andes*, Indiana University Press, Bloomington and Indianapolis.